

## 第1回鶴岡市赤川かわまちづくり協議会（会議録）

- 日 時 平成29年9月20日（水）午後3時00分～午後5時00分
- 会 場 鶴岡市勤労者会館 大ホール
- 出席委員 渡邊 一哉会長、水野 重紀委員、石原 純一委員、佐々木 邦夫委員  
佐藤 しおり委員、渡邊 真理委員、佐藤 友介委員、佐藤 利浩委員  
阿蘇 裕矢委員
- 欠席委員 黒井 晃委員、山田 鉄哉委員
- アドバイザー 高橋 一氏
- 国・市出席者 酒田河川国道事務所  
工務第一課長、工務第一課専門官、河川管理課長、赤川出張所長  
鶴岡市  
市長、建設部長、建設部参事、都市計画課長、農山漁村振興課長  
環境課長、スポーツ課長、櫛引庁舎産業建設課長  
羽黒庁舎産業建設課専門員、公園緑地主査、公園緑地係専門員  
公園緑地係主任、公園緑地係主任
- 公開非公開 公開
- 傍聴者 1名
- 次 第  
委嘱状交付  
1. 開会  
2. 挨拶  
3. 委員紹介  
4. 会長の選出  
5. 説明  
（1）かわまちづくり支援制度等について  
（2）鶴岡市赤川かわまちづくり計画について  
6. 意見交換  
7. その他  
8. 閉会

## 会議概要

### 委嘱状交付

- ・市長より出席委員へ委嘱状交付

### 1. 開 会

- ・建設部参事による開会宣言

### 2. あいさつ

- ・市長によるあいさつ

### 3. 委員紹介

- ・出席者名簿による委員及びアドバイザーの自己紹介
- ・11名の委員のうち、9名の委員が出席

### 4. 会長の選出

- ・委員の互選により、会長に山形大学農学部准教授渡邊一哉委員が選出された

### 5. 説明

議長：渡邊一哉会長

#### (1) かわまちづくり支援制度等について

… 酒田河川国道事務所による資料－1の説明 …

#### 【質疑応答】

…質問なし…

#### (2) 鶴岡市赤川かわまちづくり計画について

… 事務局による資料－2の説明 …

#### 【質疑応答】

##### 《委員》

- ・P17の具体例に動植物の観察場所の整備とあるが、P18の進行表の第1回ワークショップでかわまち歩きをする場合、10月では動植物をほとんど見ることができない。春だと赤川河川敷きで動植物をたくさん見ることができる。できれば、参加する皆さんにそういう所を見ていただきたい。4月下旬頃だと良いと思う。計画の狙いやテーマは良いと思うが、今の日程では早急すぎて、逆に狙いやテーマに合わないと思う。どのように考えているか。

<事務局>

- ・委員の指摘のとおり第1回ワークショップのかわまち歩きで動植物を見ることができれば望ましいが、協議会の開催が現在の時期になったこと、また、年度内に皆さんのご意見を伺いたいことからこのような日程とさせていただいた。まずはスケジュールどおりに進めさせていただきたい。
- ・二度手間になるかもしれないが、来年の春に計画原案がまとまった時点で、再度かわまち歩きを行うことを考えたい。その際には委員からご指導いただければと思う。

《委員》

- ・P16の鶴岡市緑の基本計画と今回のかわまちづくり計画は、どのようなつながりがあるのか。

<事務局>

- ・緑の基本計画は、平成11年に策定したものを今年5月に改定を行った鶴岡市全域の緑に関する計画となっている。公園だけでなく山林や緑地を含んだ計画であり、赤川は都市緑地という位置づけとなっている。緑の基本計画ではP16の下段に記載している公園緑地の整備方針として5つ掲げており、特に市民の皆さんが主体的に参加できる公園緑地づくりを挙げている。かわまちづくり計画とのつながりということでは、緑の基本計画が全体計画というイメージのマスタープラン、かわまちづくり計画が個別計画となるアクションプランという性格のものである。

《委員》

- ・今回の計画想定区域の下流端が鮭のやな場となっている。資料にもあったが、ここ2、3年設置されていないが、ここを区域に入れる市としての狙いは何か。現在は何もない状態であり、市民協働で復活させることを考えているのか。この場所のやな場は簾を張る、自分の知っているかぎりでは山形県内で一番古いタイプの形状をしている。

<事務局>

- ・資料にも記載があるが、設置は鮭漁業生産組合で行っていたものであり、何とか利用できるようにできないものかと相談を受けていたものである。鶴岡市としても鮭漁業生産組合を支援するような形で、河川管理者の国土交通省と十分な協議が必要と思うが、その方策についてこの協議会で検討できればと考えている。

《委員》

- ・資料にあるとおり、小学校などで稚魚の放流なども行っている。何か良い使われ方、方策ができれば良いと思う。

## 6. 意見交換

… 出席委員及びアドバイザーより …

### 《委員》

- ・たたき台のテーマ・イメージを見て、人工物を作ることだけが目的ではないことが分かった。
- ・環境を大切にしてお互い触れ合える場をつくるということはいずれも思う。
- ・最終的に河川改修がでてくるかと思うが、赤川周辺には貴重な動植物がいるため、河川改修を実施する際には、現況調査を必ず実施していただき、そのための予算措置もお願いしたい。

### 《委員》

- ・資料―2のP10.11の桜づつみがやはり気になる。
- ・城址公園（鶴岡公園）は、市民や桜の会、鶴岡市の皆さんからご協力をいただき、剪定などの管理が進んできている。
- ・馬渡の桜も素晴らしいものであるが、維持管理ができてなく、他の桜づつみもほとんど管理できていない。桜の会としても考えていきたい。
- ・老木、古木は倒れると危険なので、植樹されている間隔も考慮しながら、伐採することも検討していきたい。
- ・観光の視点からも桜づつみのあり方を検討していきたい。

### 《委員》

- ・今日の協議会で初めて知った内容もあり、これは、市としてのアピールが足りていないのではと思う。
- ・利用に関して、特に日曜は各団体の大会などによりほとんど使えない。いつでも自由に利用できる場所が必要だと思う。
- ・子供たちは大きな公園があれば遊びに行くが、赤川に安全に行くことができる環境、対策も必要だと思う。

### 《委員》

- ・赤川への知識が親にも少ない。
- ・専門家の話を気軽に聴けるようなシステムづくりが必要と考え、こういったシステムがあれば、子ども達も川に親しみを感じるのではないかと思う。
- ・現状では子ども達に川に近づいてはいけないという指導をしている。また、親と一緒に川で遊べるような場所がなく、川に近づける、遊ぶことができる環境整備をしてもらえればと思うし、ソフト面として川のガイド等の人材育成なども行っていければと思う。
- ・赤川河川緑地の土手をウォーキングに使っている人が多くいるが、日没が早くなるとかなり暗く、照明があれば良いと感じる。
- ・桜ハウスについて、無人であることからの利用者のマナーの関係等により、現在はトイレのみの利用となっているとのことだが、更衣室やシャワー室があり運動をする人にとっては理想的な施設だと思うので、スタッフを常駐するなどして利活用できれば良いと思っている。

《委員》

- ・ワークショップについて、子どもや親子での利用が少ないのであれば、実際に使っている人の意見だけでなく、普段使っていない人や使ってみたい人の意見や評価を聞く機会がほしいと思う。
- ・子どもからの意見も取り入れながら進めてもらえればと思う。
- ・川で遊ぶことを教えてもらえるような場所や機会があれば良いと思う。

《委員》

- ・赤川花火大会としての視点にどうしてもなってしまうが、資料—1のP4にある良好な河川空間を形成する取り組みとなるよう、自然環境も考慮しながらイベントとしてより良い賑わいづくりをしていきたいと思い、またワークショップでもいろいろな意見を聞きながら考えていきたい。

《委員》

- ・赤川河川敷きは多目的に利用されていると思う。
- ・赤川河川緑地の土手の道路が通行止めになり、ウォーキング等する方にとっては非常に良いことだと思うが、同じように施設の中においても安全に利用できるよう配慮が必要と思う。
- ・現在の施設を活かすことも大事かと思うが、新しいスポーツも取り入れたものも考えられるのではないかと思う。多くの人々が新しいスポーツに対する理解を深め、その施設がレクリエーション施設として価値のあるものになっていければと思う。
- ・水辺空間について、川に下りられる、触れられる場所があれば良いと思うところであり、このかわまちづくり協議会で委員の皆さんと協議していければと思っている。

《委員》

- ・計画を検討するうえで、この区間における赤川の魅力は何かをまずは突き詰めて考える必要がある。おそらく赤川のこの区間の魅力は、桜づつみを中心とした景観ではないかという気がする。それに加えて花火とかワイン祭といったイベントや河川緑地公園がある。また全体を通して動植物を含めた豊かな水辺の環境がある。これらを踏まえたうえで、赤川をどのようにしていくかということが重要。
- ・例えば、水辺での環境体験学習プログラムを組むということも考えられる。やな場についてもどういった利用の物語をつくっていくか。
- ・また、高水敷を自転車道にして、三川町も含めた広域的な連携を図ることで、市内外とのつながりなど、いろいろなことが生きてくるのではないか。
- ・計画策定後に推進協議会を設立する予定とあるが、現在、住民が維持管理にどれだけ関わっているか、住民にどれだけのポテンシャルがあるか、新たな計画をつくることでどれだけ住民の力をうまく引き出せるかを、今の段階から考えておく必要がある。

#### 《アドバイザー》

- ・かわまちづくり計画は、登録後の変更も可能となっているので、フランクに考えていただければと思う。
- ・内川と赤川を結ぶ遊歩道など、県管理の内川も計画に取り入れることなども検討していただければと思う。

#### 《委員》

- ・維持管理について、事業の計画が終わった後も使いまわせる仕組みづくりが重要になってくる。そういったことができれば新しい赤川の利用ができるのではないかと思う。
- ・馬渡の桜つつみも名所でありながら、誰が管理しているかわからないというような場所であり、非常にもったいないと感じる。その場所は桜という生き物でもたらされている景観であり、その命が終わったあとにどうしていくかも環境の観点から考えていかなければならない。目の前のことも大事ではあるが、赤川のかわとまちをどう維持していくかも、この協議会で議論していければと思う。

#### 進行：事務局へ

##### 7. その他

… 意見・質問等なし …

##### 8. 閉会

- ・建設部長よりお礼の挨拶
- ・建設部参事による閉会宣言